

日本成年後見法学会 第15回学術大会報告

平成30年6月2日 於 神奈川大学横浜キャンパス

成年後見制度利用促進基本計画について～「内閣府の2年間」を踏まえて～

須田 俊孝（厚生労働省社会・援護局地域福祉課成年後見制度利用促進室長大臣官房参事官）

1. H28、29年度における関連施策の展開

- ・ 欠格条項見直し法案の取りまとめ
- ・ 新オレンジプランの改定
- ・ 市区町村における包括的な支援体制の整備に関する指針の公表。

2. 厚労省社会・援護局地域福祉課成年後見制度利用促進室の発足

- ・ 利用促進基本計画の推進に向けての取り組みを行う。
- ・ 後見の社会化、支援の取組強化、福祉現場と裁判所の連携強化が重要。

地域連携ネットワークのあるべき姿

周 作彩（流通経済大学教授）

1. なぜいま地域連携ネットワークなのか

- ・ これまでの成年後見は財産管理面が重視されてきたが、今後は身上保護といった福祉的側面を重視する必要がある。

2. 中核機関が要となる

- ・ 中核機関は司令塔機能、事務局機能、進行管理機能が求められる。
- ・ 原則として市町村直営の中核機関を設置すべき。

3. 司法機関に求められる事項

- ・ ネットワークを支える主要な機関としての役割を担う体制を整備する。
- ・ 意見交換会などには積極的に参加すべきである。
- ・ 福祉行政と司法がそれぞれの役割を理解し、それが合わさることで有効な制度運用が実現する。

日常生活における意思決定とその支援

名川 勝（筑波大学、特定NPO法人PAC ガーディアンズ、一般社団法人日本意思決定支援ネットワーク）

1. 法律や医療上の意思決定と、日常生活における意思決定の違い

- ・ そもそも代理による意思決定を必要とする事案であるのかの判断をする。

- ・近々に決定が必要なのか。決定者の確定、責任の所在。
2. 意思決定における3つの考え方
 - ・表出された意思、心からの意思
 - ・意思と選好の最善の解釈
 - ・客観的な最善の利益

絶対的欠格事項の廃止と今後の課題

上山 泰（新潟大学）

1. 絶対的欠格条項の問題点
 - ・成年後見制度の理念と抵触する。
 - ・被保佐相当に能力が低下している人と、任意後見を利用している人、制度を利用していない人との不平等がある。
 - ・審判手続きにおいて本人に欠格条項についての情報開示がされていない。
2. 欠格条項の一括見直し整備法案
 - ・ex. 土業法 原則として欠格条項を削除するとともに個別審査規定を整備する。
3. 今後の課題
 - ・障害一般を根拠とする広義の欠格条項の残存の精査
 - ・個別審査規定の適正運用の保証。
 - ・欠格条項廃止後の法定後見制度の機能に関する理論的検討

認知症診療の現状

丸木 雄一（社会福祉法人シナプス埼玉精神神経センター・さいたま市認知症疾患医療センター長）

1. かかりつけ医とのネットワーク
 - ・さいたま市4医師会が中心となって認知症ケアネットワークを発足させた。
 - ・厚労省の新オレンジプランより早く、もの忘れ相談医リストを作るなど先進的な取り組みを行ってきた。
2. 地域包括支援センターとのネットワーク
 - ・さいたま市からの受託条件として年2回の運営者会議を実施。会を重ねるごとに施設間の連携が密になってきた。
3. ケアマネージャーとのネットワーク
 - ・地域包括支援センター設立当初は、ケアマネはほとんどかかりつけ医との連携をとる術を持たなかった。
 - ・医師とケアマネの顔の見える連携を目指して、年2回の研究会を続けている。

感想

今回の定期大会は、統一テーマを「成年後見制度利用促進基本計画の具体化に向けた提言」と題し、促進計画2年間の総括や今後の関連施策の展開、特に地域連携ネットワークの中核機関のあり方についての検討がメインでした。いよいよ同計画が具体的に動き出す時期とあり、会場は満員で皆真剣に報告に耳を傾けておりました。私見では、地域連携ネットワークへの参画を想定してからか福祉関係者の出席が多かったように感じました。

基調講演、パネルディスカッション共に各報告者の自由な意見発表や問題提起がされたため、やや結論付けの難しい印象を残しつつ閉会しましたが、それは現状成年後見制度の持つ課題や問題点の複雑さを示すものであり、今年10月の第5回成年後見法世界会議への布石として十分価値のある学術大会でした。

指定発言では税理士の伊藤佳江先生が、税理士が成年後見制度の発展に関して大きく貢献できる可能性を持っていること、税理士会として既に積極的な活動を行っていることが報告されました。税理士は成年後見の分野では専門職三士業と比較して影が薄い印象を否めないところですが、今後はより積極的に関与していくことが責務であると痛感しました。